

令和 5 年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立天下茶屋小学校

令和 6 年 3 月

大阪市立天下茶屋小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

3年間新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの活動について制限があった。今後も、そのような状況が続くと考えられる。子ども達の安全面を最優先に考え工夫しながら取り組みたい。

(学力向上)

学力向上に関しては、今年度から STEAM 教育を推進した。理科教育特に「実験」「観察」の充実に努め、積極的な理科室の利用、学習園の活用、タブレット等の ICT 機器の活用を進めた。さらに理科補助員を配置し実験や観察のサポートを依頼し、また外部から講師を派遣し特別授業を行った。今年度から高校の授業に「情報」が入り、現在の小学生にとっては大学の入試科目になる。早い時期からのプログラミング教育は必要になるので、今後も低学年からでも進められるように準備していきたい。また言語力向上の取り組みも引き続き、読書活動を推進してきた。コロナ禍で図書館ボランティアの活動に制限はあったが、学校司書による読み聞かせ等の取り組み、保護者ボランティアによる図書館開放や図書委員会の活動により、図書室の更なる整備と充実を図り、可能な限り児童が読書への興味関心をもつ取り組みや工夫を行ってきた。さらに区のジャガピースクール、英語コミュニケーション、読書活動推進事業などとの連携を推進した。今後はタブレットを活用した家庭学習、宿題、オンライン授業での活用を進めていきたい。

(教員の授業力向上)

教員の授業力向上に関しては「学力向上支援チーム」のスクールアドバイザーによる全教員の研究授業および研究協議の指導・助言を依頼した。また研究教科を昨年に続き「道徳科」にし、児童自身がわかる楽しさや、自らの課題を見つけ、意欲的に解決する姿勢を育成することもできた。今後も相互授業参観の機会を増やし、特に若手の授業力向上を図りたい。

(健康・体力)

新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みから、手洗いの励行、毎日の健康状態の管理等を通して健康の保持増進に積極的に努めた。ただ運動場などではマスクの着用はしなくてもよくなったり、給食では大声以外の会話は可能になったりと少しずつ緩和されてきた。歯磨き指導も復活することができた。以前子どもたちの体力低下が心配されているが、今年度は縄跳び週間を1・3学期の2回に増やし、2学期にはかけあし週間でインターバル走を取り入れた。

(規範意識・自尊感情)

学校生活における基本「時を守り、場を清め、礼を正す」では、「時間を作る」「校内をきれいにする」ことの重要性を朝会の場や学校だよりを通して訴え、児童の自発的な行動を目指した取り組みも行った。また児童会活動では「あいさつ週間」を設定し自ら進んで「あいさつ」することの大切さに気付かせることで、思いやりの心や感動する心、互いに違いを認め合える、豊かな情操の育成に努めた。いじめや不登校など生活指導における情報交換を教職員間で定期的に実施することに加えて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有し、各家庭との連携を図るなど、問題の解決に努めた。不登校児童は少なからずおり、改善はしていないという問題は残るものとの他の生活指導における問題は解決できている。

(安全教育)

特に、今年度は児童の安全を最優先に取り組んだ。毎日の通学路の見守り活動、巡回は昨年度に引き続き行い、地震・津波や火災に対する避難訓練、集団下校や保護者への引き渡し訓練、不審者対応訓練を実施した。さらに関係諸機関とも連携し、非行防止教室や交通安全教室も実施した。PTA が中心の通学路プロジェクトで危険地点の再確認や子ども 110 番の所在を知らせる取り組みを行った。

(教育環境の充実)

働き方改革が叫ばれて久しくなるが、教員不足の現状もあり少しずつではあるが改善してきた。

本校でも時間外勤務時間の短縮の取り組みを行った。電話新設に伴い音声ガイドで18:00から8:00までの留守番対応、「ゆとりの日」NO会議デーの設定、18:00セット日の設定を行った。また若手教員によるメンター研修、会議後の校内研修など効率化を図りながら時間短縮に努めてきた。

(課題)

感染対策については、市教委の指示・連絡に沿って取り組んでいくが、学校の実情や保護者の思いもあり、学校としての判断を検討していきたい。

教員の働き方改革を、保護者や特に地域の方にどうご理解していくかが課題である。区や市の協力を得ながら、教員の負担軽減を進めていきたい。

「いじめ」等の問題では、学校だけで問題解決できないケースが多く、スクールロイヤーの活用も検討していきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「いじめはどんな理由があってもいいことだと思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を全国平均以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を全国平均以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しいですか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を全国平均以上にする。
- 令和7年度末の全国学力・学習状況調査における「自分には良いところがありますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」答える児童の割合を全国平均以上にする。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和7年度までに全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を0.95以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を70%以上にする。
- 令和7年度3学期における校内アンケートで「学習は楽しい」と答える児童の割合を全体の90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 令和7年度末の運動におけるアンケートで、なわとびタイムの時間になわとびをしっかり取り組んだという児童の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の授業日において学習用端末を毎日使用した学校の割合を100%にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査におけるデジタル教材を使った学習は楽しいですかの項目に対して「楽しい」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を50%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を進めている」と肯定的に答える保護者の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小・中学校)

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。(R4:73.3%)
- 令和5年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R4:1.40)
- 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(R4:50)

学校園の年度目標

- 令和5年度3学期における校内アンケートで「あいさつが、しっかりできている」と答える児童の割合を全体の70%以上にする。(R4:66.1%)
- 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。(R4:86.3%)
- 令和5年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を前年度より減少させる。前年度(R4:0名)

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標(小・中学校)

- 令和5年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合を50%以上にする。(R4:44%)
- 令和5年度の小学校学力経年調査において、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。(R4:73%)
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。

	国	算
6年	-0.5	-0.4
5年	+1.3	+0.7
4年	+0.5	+0.5

- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(R4:65.1%)
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R4:87.4%)

学校園の年度目標

- 令和5年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一の母集団で比較し前年度より向上させる。

	H30	H31	R2	R3	R4
3年生	92.8	99.1	94.0	99.7	103.5
4年生	94.8	89.4	103.3	93.6	100.2
5年生	96.3	93.9	95.0	100.1	95.2
6年生	96.4	96.3	95.9	94.7	100.1

- 令和5年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。

	3年生	4年生	5年生	6年生
令和2年度	41.9	9.7	21.6	15.8
令和3年度	12.5	34.4	14.3	23.6
令和4年度	6.3	11.4	20.7	5.7

- 令和5年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上、上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント増加させる。

	3年生	4年生	5年生	6年生
令和2年度	19.4	32.3	3.9	10.5
令和3年度	21.9	9.4	25.7	7.3
令和4年度	40.6	22.9	17.2	17.1

- 令和5年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答える児童の割合を前年度より向上させる。前年度(R4:71%)

- 令和5年度の 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、全ての項目について令和4年度の結果を維持する。

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20Mシャトル	50M走	立ち幅跳び	ソフト投げ	体力合計点
R4男子	19.43	19.86	32.93	26.86	30.71	9.73	139.64	15.83	45.92
R4女子	17.67	18.11	40.33	28.61	26.94	9.59	137.28	10.78	50.17

- 令和5年度末の運動におけるアンケートで、なわとびカードの目標や自分の目標を達成できたと答える児童の割合が85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標(小・中学校)

- 学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。
- 令和5年度の小学校学力経年調査におけるデジタル教材を使った学習は楽しいですかの項目に対して「楽しい」と答える児童の割合を前年度以上にする。前年度(R4:64.6%)
- 令和5年度の教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上にする。(R4:78.9%)

学校園の年度目標

- 「ゆとりの日」NO会議デーを月1回設定する。
- 定時(17:00)セットの日を学期に1回設定する。
- 令和5年度末の保護者アンケートにおける「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を進めている」と肯定的に答える保護者の割合を前年度以上にする。前年度(R4:82.4%)

3 本年度の自己評価結果の総括

5月8日に、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に変更され、コロナ禍では制限のあった活動も制限はなくなったが、引き続き子ども達の安全面を最優先に考え工夫しながら取り組んだ。

学力向上に関しては、昨年度に引き続きSTEAM教育を推進した。今年度も「実験」「観察」の充実に努め、積極的な理科室の利用、学習園の活用、タブレット等のICT機器の活用を進

めた。さらに外部から講師を派遣し特別授業を行った。昨年度から高校の授業に「情報」が入り、現在の小学生にとっては大学の入試科目になる。早い時期からのプログラミング教育は必要になるので、低学年からでも進められるように準備し、さらにタブレットの家庭学習・宿題への活用を検討していきたい。また区の支援事業のジャガピースクール、英語コミュニケーション、読書活動推進事業などとの連携を推進した。そして学力向上の下支えのため、さらなる読書活動を推進してきた。毎週水曜日と木曜日の朝 8:30~8:40 の 10 分間に「読書タイム」を設け、また学校司書による読み聞かせ等の取り組み、保護者ボランティアによる図書館開放や読書の木、図書ガチャ、図書おみくじなどの図書委員会による活動など可能な限り児童が読書への興味関心をもつ取り組みや工夫を行ってきた。

教員の授業力向上に関しては「学力向上支援チーム」のスクールアドバイザーによる全教員への指導・助言を依頼した。また今年度も講師を指導要請し全学年で「体育科」の研究授業・研究協議を実施した。今後も相互授業参観の機会を増やし、特に若手の授業力向上を図りたい。あわせて、コロナ禍で低下した体力および運動能力を回復するため、研究教科を体育科とし、運動やスポーツが苦手な児童でも手軽に楽しく取り組める表現活動やリズム運動を学校全体で取り組んだ。体育の授業やパワーアップタイム、15分休みに実施し、子どもたちの運動不足を解消していきたい。

コロナ禍ではなくなったが、引き続き手洗いの励行、毎日の健康状態の管理等を通じ健康の保持増進に積極的に努めた。また今年度は縄跳び週間を1・3学期の2回に増やし、2・3学期にはかけあし週間でインターバル走を取り入れた。しかし深刻なのが近年の気温上昇で、夏場の猛暑はともかく 10 月ころまで夏日が続き熱中症対策が喫緊の課題である、さらに夏場の運動やプール水泳なども危険のため制限する必要があり、運動会などの実施日の検討や日よけ対策も必須である。

学校生活における基本「時を守り、場を清め、礼を正す」では、「時間を守る」「校内をきれいにする」ことの重要性を朝会の場や学校だよりを通して訴え、児童の自発的な行動を目指した取り組みも行った。また児童会活動では「あいさつ週間」を設定し自ら進んで「あいさつ」することの大切さに気付かせることで、思いやる心や感動する心、互いに違いを認め合える、豊かな情操の育成に努めた。

子どもたちの心の状態を把握したり子どもたちからのSOSをいち早くキャッチするため、タブレット端末のスクールライフノート「心の天気」「相談」などの機能を活用したり、いじめや不登校など生活指導における情報交換を教職員間で定期的に実施することに加えて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有し、各家庭との連携を図るなど、問題の解決に努めた。不登校児童は少なからずおり、改善はしていないという問題は残るものその他の生活指導における問題は解決できている。

校区が西成ということもあり、児童の安全を最優先に取り組んだ。毎日の通学路の見守り活動、巡回は昨年度に引き続き行い、地震・津波や火災に対する避難訓練、集団下校や保護者への引き渡し訓練、不審者対応訓練を実施した。さらに関係諸機関とも連携し、非行防止教室や交通安全教室も実施した。PTA が中心の通学路プロジェクトで危険地点の再確認や子ども 110 番の所在を知らせる取り組みを行った。

近年、働き方改革が叫ばれて久しくなるが、教員不足の現状もあり少しづつではあるが改善してきた。本校でも「ゆとりの日」NO会議デーやセット時間の設定、会議の効率化を進め、時間外勤務時間の短縮の取り組みを行った。また学校協議会やPTA 実行委員会などで保護者や地域にも周知し、教員の負担軽減への理解と協力を依頼した。さらに ICT 機器活用や若手教員育成のため研修活動を増やし、外部講師も積極的に招聘した。

今後も学校では、予想されるSociety5.0といわれる社会に順応できるように、ICT機器の導入やネットワーク切り替えなどICT教育環境の整備が急速に進んでいく。子どもたちが誰一人取り残されないような取り組みを推進していく必要がある。そのために本年度の教育活動を、本自己評価を踏まえ、次年度の教育改善へとつなげていく。

大阪市立天下茶屋小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○令和5年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○令和5年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○令和5年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和5年度3学期における校内アンケートで、「あいさつがしっかりできている」と答える児童の割合を全体の70%以上にする。</p> <p>○令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○令和5年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>1 いじめや問題行動の未然防止に努めるとともに、早期発見・指導・解決に学校全体で取り組む。</p> <p>2 基本的な生活態度の育成に努め、規律と秩序のある教育環境の実現に取り組む。</p> <p>3 防災・減災教育および安全教育の充実に努め、避難訓練、防災訓練等の実施により災害時等の避難行動の定期的確認に努める。</p> <p>指標</p> <p>1 こども生活まなびサポーターと連携し、スクリーニングシートを作成するとともに、6月と12月に「いじめについてのアンケート」を実施し、いじめの早期発見・早期解決につとめる。また、いじめ・不登校・虐待など生活指導上の問題について、毎月の「スクリーニング会議Ⅰ」で、情報を共有し、共通理解を図る。</p> <p>2 学期に1回、あいさつ週間を設定し、あいさつ運動を行う。 4月、9月、1月の生活目標を「登下校の時刻を守る」に設定し、遅刻防止活動に全教職員で共通理解し、家庭との連携を図る。隔週1回異学年での集会を行い、異学年交流の機会を設ける。</p> <p>3 地震(津波)、火災、台風および不審者の侵入に対する避難訓練を実施し、災害時の避難行動の定期的確認に努める。 自転車の乗り方について安全教育を実施し、交通安全にとりくむ。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
指標 1	今年度はスクリーニングシートの作成は行わず、「いいとこみつけ」の活用を優先した。いいとこみつけてのいじめ・不登校・虐待など生活指導上の問題について、毎月の「スクリーニング会議Ⅰ」で、情報を共有し、共通理解を図ることができ、学校全体で諸問題に取り組むことができた。6月・12月・2月に「いじめについてのアンケート」を実施し、いじめの早期発見・早期解決につとめた。
指標 2	4月、9月にあいさつ週間の設定、実施をすることができなかつたが、1学期は7月に、2学期は11月に、3学期は1月に実施した。9月、1月の生活目標を「登下校の時刻を守る」に設定したが、大半が守ることができていた。毎朝、教職員が門の前のあいさつや声掛け、全校朝会での指導を行うことで、遅刻してくる児童が少なくなっている。また、児童集会は隔週で実施することがおおむねでき、異学年で交流することができた。
指標 3	各災害時の避難訓練は、地震、台風、火災とすべて行うことができた。交通安全指導も11月に実施した。職員の緊張感や万が一の場面を想定し、今年度より、職員向けの防犯訓練を行う。また、自転車運転の際ヘルメットの着用が努力義務になっているので、交通安全指導を中心に呼びかけている。
次年度への改善点	
1. 来年度からは、生活指導上の問題の共有については「いいとこみつけ」に統一する。 2. あいさつ週間と生活目標を同時期に行うのであれば、生活目標の変更をする必要がある。 また、来年度の運動会の実施時期が6月のため、後期代表委員会の切り替えを改めて、決める必要がある。 3. 避難訓練後の講話を、担当からも行う。阪神淡路大震災の時期に地震津波訓練を行ってはどうか。また、階段の名前を方角ではなく、1・2・3と番号で名前を付けることで、避難の際にスムーズである。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】	
1 道徳年間指導計画に基づき、道徳の時間はもとより全教育活動を通じた道徳教育を行う。 2 一人一人を大切にする人権教育を推進するとともに、特別支援教育の充実を図る。 3 さまざまなものに触れ合い、個性や想像力、自分を表現する力をはぐくむ情操教育を推進する。 4 多文化共生教育の取り組みを推進する。	
指標	<p>1 令和5年度末の校内アンケートで「学校のきまりを守っていますか」という設問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を前年度より向上させる。</p> <p>2 平和について学び考える期間を設け、命の大切さを強く認識させる。特別支援教育について支援方法の工夫・充実に努め、教育委員会等と連携のもと児童理解研修を実施する。</p> <p>3 豊かな情操を育むため、芸術にふれあう機会を設ける。地域の方を講師として迎え、我が国や地域の文化・伝統を学ぶ体験活動を実施する</p> <p>4 多文化共生教育を推進する取り組みとして「フレンドクラブ」を開催する。</p>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
指標 1	道徳教育の全体計画や年間指導計画に基づき、道徳の時間を確保し、各学年で学習を進めてきた。道徳教育の校内研修を2学期に行い、板書をもとにして授業の在り方にについて研修を深め、授業に活かすことができた。校内アンケート「学校のきまりを守

っていますか」の項目で肯定的回答の児童の割合は82%で、昨年度の62.9%よりも上回った。

- 指標2 人権教育の取り組みとして、平和学習「ピースてんがちゃや」を実施した。各学年で戦争についてのビデオを視聴し、1学期末懇談会時に玄関に掲示する事で児童はもちろん保護者も児童の平和についての考えを知るきっかけとなった。特別支援教育については、特別支援学級に在籍する児童の支援計画についての研修を年度初めに行つた。支援をする児童について、5月に教職員全体で共通理解し、3月には特別支援学級在籍児童の1年間の支援・指導計画について振り返る研修を実施した。また、11月に「ソーシャルスキルトレーニング」に関する研修を行つた事により、特別支援学級在籍の児童だけではなく配慮を要する児童への支援の手立てとなつた。長居小学校の通級学級での指導方法についても教職員に周知し、共通理解した。
- 指標3 6月に大阪フィルハーモニー交響楽団に来てもらい、音楽鑑賞会を実施した。11月に地域の講師に来てもらい、6年生はレザークラフト体験、5年生は茶道体験を実施した。1月には、地域の方々に来てもらい、昔遊び体験を実施した。地域の方々と連携しながら体験活動を実施することができた。
- 指標4 計5回、計画通り実施することができた。閉講式では、これまでの活動の様子をビデオで振り返り、ベトナムと中国お二人の民族講師からのメッセージを載せた終了証を一人一人に授与し、活動を終了することができた。6年生児童には、閉講式や開講式に代表挨拶を担当してもらい、6年間活動した思いや、在校生に対しての思いを伝える場を設けることができた。また、活動の様子を職員室廊下に掲示し、フレンドクラブに参加していない児童に対しても、フレンドクラブの取り組みを紹介することができた。

次年度への改善点

1. 継続して取り組みを進めていきたい。
2. 来年度も講師先生による特別支援研修会を実施していく、児童理解を深めていく。
3. 講師の高齢化で、いつまで続けられるかという懸念はあるが、できる限り取り組みを続けていきたい。
4. 来年度も継続して取り組みを実施していくよう、民族講師の派遣要請を出していく。また、来年度民族交流会（本校実施）に向けて、手紙を通して参加を呼びかけていく。

大阪市立天下茶屋小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標（小・中学校）	
○令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合を50%以上にする。	
○令和5年度の小学校学力経年調査において、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。	
○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の全国比を、同一母集団	

- において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
 - 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

学校の年度目標

- 令和5年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一の母集団で比較し前年度より向上させる。

	H30	H31	R2	R3	R4
3年生	92.8	99.1	94.0	99.7	103.5
4年生	94.8	89.4	103.3	93.6	100.2
5年生	96.3	93.9	95.0	100.1	95.2
6年生	96.4	96.3	95.9	94.7	100.1

B

- 令和5年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。

	3年生	4年生	5年生	6年生
令和2年度	41.9	9.7	21.6	15.8
令和3年度	12.5	34.4	14.3	23.6
令和4年度	6.3	11.4	20.7	5.7

- 令和5年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上、上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント増加させる。

	3年生	4年生	5年生	6年生
令和2年度	19.4	32.3	3.9	10.5
令和3年度	21.9	9.4	25.7	7.3
令和4年度	40.6	22.9	17.2	17.1

- 令和5年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答える児童の割合を前年度より向上させる。(R4:71%)

- 令和5年度の 全国体力・運動能力、運動習慣調査 において、全ての項目について令和4年度の結果を維持する。

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20M シャトル	50M 走	立ち幅跳び	ソフト投げ	体力合計点
男	19.43	19.86	32.93	26.86	30.71	9.73	139.64	15.83	45.92
女	17.67	18.11	40.33	28.61	26.94	9.59	137.28	10.78	50.17

R4結果

- 令和5年度末の運動におけるアンケートで、なわとびカードの目標や自分の目標を達成できたと答える児童の割合が85%以上にする。(R4:85%)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標									進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 1 児童がそれぞれの目標に向けた学習に取り組む姿勢の定着を図る。 2 道徳科を中心に、他教科との結びつきを考え児童の発達段階に応じた適切な指導ができる									

る授業実践を行う。

- 3 学びサポートー、特別支援サポートーと協働しながら、個に応じた指導を行う。
- 4 理科専科教員が中心になって、実験・観察の授業を増やす。

指標

- 1 学力経年調査にむけて、自分自身が設定した目標(合格等)を達成するよう取り組ませ、結果について自己反省を促させる機会とする。
- 2 体育科を研究教科として計画的に授業研究を進め、一人1回以上の公開授業に取り組む。同時に他の教科・領域についても研修を進め、教員の指導力向上に努める。
- 3 年度末に実施する「学校生活アンケート」の次の項目について、肯定的回答の割合を令和4年度の結果より向上させる。
 - ・「学習は楽しい」(R4:67.3%)
 - ・「調べたり発表したりする学習は好きである」(R4:46.8%)
 - ・「宿題や学習道具の忘れ物は、ほとんどない」(R4:50.2%)
- 4 月に1回以上、理科室を利用する。学期に1回以上、学習園を利用する。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 指標 1 算数科を中心に習熟度別学習や少人数指導、T・T指導を単元によって組み合わせて実施することで個に応じたきめ細かい指導ができた。児童自身も単元テストで結果として表れることで「やればできる」「わかる喜び」を感じとて意欲的に学習に取り組もうとする姿勢が身についてきている。また、学力経年調査に向けて過去の問題から想定される類似問題に取り組むことで、初めての経験となる3年生も時間配分に気をつけながらできるだけ無回答がないように進めることができた。
- 指標 2 毎回、外部講師を招聘して予定通り6本の研究授業が実施できた。授業後の討議会では教員同士で意見交流を通して成果を共有したり、課題について話し合ったりして授業を振り返ることで“表現運動”へのイメージを広げることができた。指導助言をもとに試行錯誤をして授業を作り上げていくことで学年の実態に応じためあてを設定した研究授業を通して、運動することの「楽しさ」や「喜び」や「おもしろさ」を体感させることができた。全国体力・運動能力の結果からも運動やスポーツをすることへの興味関心が高く、各項目における実技平均は握力、上体おこしを除いては昨年度の結果を大きく上回った。様々な取り組みが体力の向上へと繋がった。
- 指標 3 「学校生活アンケート」の結果としては、「学習が楽しい」の項目は86%で、前年度の64.7%を上回った。「調べたり発表したりする学習は好きである」の項目は69%で、前年度の46.8%を上回った。また、「宿題や学習用具の忘れ物は、ほとんどない」の項目は65%で、前年度の50.2%を上回った。アンケート項目の結果はどれも大きく向上してはいるが、宿題を含む忘れ物をする児童は固定化されており、家庭の協力が今後も必要である。年間を通して、学びサポートー、特別支援サポートーと連携しながら、国語科、算数科を中心とした必要な教科で教室へ入り込み支援を行い、音読や視写、計算などの基礎的な学力が身につくよう、個に応じたきめ細やかな支援をすることができた。
- 指標 4 6年の学習を中心に理科室での実験・観察の回数を増やした。第4～6学年で10回以上実験・観察を理科室で学習を行った。学習園では植物の学習などで第3学年を中心利用し5回以上学習で活用した。

次年度への改善点

1. 今後もパワーアップタイムやデジタルドリルなども活用しながら反復学習を通して基礎。本の定着が図れるようとする。
2. 研究主題に追究できるように研究体制の課題について検討していく。
3. 繼続して取り組みを進めていきたい。
4. 猛暑などの影響で学習園の手入れが行き届かないことがあった。複数名で協力して手入れをしていく必要がある。また、理科補助員がいない活動は、準備や実験などの工夫が必要である。

取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

- 1 全校で英語に触れ合う時間帯を設定し、低学年からの英語学習の取り組みを推進する。
- 2 藏書管理充実に向けた環境整備を進めるとともに、保護者や地域と連携して本に親しむための催しを企画することにより、読書への興味関心を高める。

指標

- 1 「DREAM」などの教材から、毎月の「歌」や「お話」について全校一斉学習を行い、全学年で英語活動を実施する。
- 2 学校図書館補助員及び図書館ボランティアによる協働運営体制づくりを継続発展させるとともに、バーコードによる蔵書管理を充実させるための環境整備を行う。
 - ・授業時間以外での図書館の開館回数を35回以上にする。
 - ・図書委員会による積極的読書活動の起点となる活用を図り、児童ひとりあたり年間読書数の目標を20冊とする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 指標 1 パワーアップタイムでは週1回、英語の時間を設定して低学年では簡単なABCソングから慣れ親しむことから始めている。また3年生以上では「DREAM」を活用し、ネイティブスピーカーとのチームティーチングで授業を進めている。また、コミュニケーション能力を高めることを目的として、1月には「英語コミュニケーション事業」を活用して外部講師を招いて英語活動を実施した。10月に、外国語指導巡回訪問を依頼し、教員の指導力向上を目指している。
- 指標 2 週1回学校司書が来校し、読み聞かせ活動やブックトーク、図書館開放を行った。今年度は、週1回PTAによる図書館ボランティアの図書館開放を行っている。年始には、図書館ボランティアと連携して、おみくじを引く催しを行った。蔵書管理や蔵書構成の充実のために、学校司書による貸出可能図書や新書のバーコード登録化、蔵書のNDC順への整理を行った。図書委員会や図書館ボランティアによる授業時間以外での図書館の開館回数は、80回である。図書委員会の活動では、週2回の昼休みの図書館開放と週一回の紙芝居の読み聞かせ活動を行っている。毎週1~2回読書タイムを行い、西成図書館から読書タイム用の本を借り、児童が本を読む環境を設けた。読書週間では、図書委員会で読書カードを用いた読書活動を行った。年間読書数の目標である20冊が達成できている児童は、2月8日時点で97.6%である。

次年度への改善点	
指標 1	来年度も引き続き児童が英語に慣れ親しむことができる環境づくりに取り組む。
指標 2	次年度も引き続き学校司書と図書館ボランティアと連携した取り組みを継続する。
取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】	
1	発達段階に応じた睡眠に関する指導により健康への意識づくりを行う。
2	手洗いの励行などの日常指導による感染症予防に努める。
3	食育指導の充実につとめ、給食時間における「食」への興味関心を深める取り組みを行う。
4	体力づくり、運動習慣の定着をめざし、「なわとび週間」を設定する。
指標	<p>1 令和5年度全国学力・学習状況調査における「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」の項目について肯定的に答える児童の割合を前年度より増加させる。(R4年度 86.5%)</p> <p>2 感染症予防について、1・2年生で特別活動、3年生以上で感染症・手洗いに関する保健学習を実施し、進んで手洗いができるように指導すると共に、「保健だより」等により保護者への啓発を行う。</p> <p>3 ・6月に「食育週間」1月に「給食週間」を設定し、食育を推進する。 ・給食だより・栄養だよりの定期的な発行により保護者への啓発を行う。 ・令和5年度末の校内アンケートにおける「給食は、しっかり食べている」の項目について、「当てはまる」と答える児童の割合を前年度より増加させる。(R4年度 63.9%)</p> <p>4 「なわとび週間」を実施し、年度末の運動アンケートにて、「なわとびタイムの時間になわとびをしっかり取り組んだ」という肯定的回答の割合を前年度より増加させる。 (R4年度 96.0%)</p>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
指標 1	2学期に睡眠に関する実態調査を行い、それに応じた保健教育を発達段階に応じて実施した。全国学力・学習状況調査における「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」の項目について肯定的に答える児童の割合は(R5年度 71%)であった。
指標 2	冬の感染症が流行する季節に向けて、感染症予防についての保健教育を行ったり手洗い週間を設けたりして、感染症予防に努めた。また、CO2モニターを取り入れ、二酸化炭素濃度が1000ppmを超えたら換気するなど各教室で活用した。保健だよりでは、隨時、保護者への啓発を行った。
指標 3	栄養指導については予定通り各学年2回ずつ実施した。それぞれの栄養素の働きや栄養バランスの取れた朝食を摂る大きさ、食生活が健康な体につながることを学習した。1月には調理員さんへのお手紙を作成したり、インタビューをビデオで流したりして給食に関わる方々の存在に気づき、残食をなくすことへの意識を高めることができた。実際に、校内アンケートにおける「給食は、しっかり食べている」の項目について、「当てはまる」と答える児童の割合が83%と前年度より上回る結果となった。さらに、給食委員会によるラッキーにんじんのイベントや好き嫌い調べなどの取り組みにより“食”への興味や関心がもつことができた。
指標 4	令和4年度のスポーツテストの結果から跳躍力と持久力が平均値と比べて低いことから体力を向上させるために、年に2回ずつ「なわとび週間」と「かけあし週間」を設定して低・中・高で難易度を分けたなわとびカードを活用し、児童が積極的に取り組めるように工夫を凝らして取り組んだ。「なわとび週間」と「短なわ大会」は5月に実施し、1月末に「なわとび週間」と合わせて「大なわ大会」も実施した。また、12月と1月に「かけあし週間」も実施した。なわとびアンケートの「なわとびタイムの時間になわとびをしっかり取り組んだ」という項目の結果は、前年度96%に対して本年度は88.2%と低下した結果となった。

次年度への改善点

- 1 次年度も引き続き保健教育において、発達段階に応じた睡眠に関する教育を行っていく。また、指標の全国学力・学習状況調査を経年テストに変更したいと考えている。
- 2 次年度も引き続き、インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症などの感染症予防に努めるため、保健教育や家庭への啓発を行っていく。
- 3 次年度も定期的に給食委員会を中心とした様々な取り組みを実施していきたい。栄養指導については近隣校の栄養教諭と日程を調整して取り組んでいく必要がある。
- 4 楽しく運動に慣れ親しむ機会を増やしていきたい。
なわとびに関しては、子どもたちの目標を可視化することでしっかりと目標と向き合えるようにする。
マラソン大会等の新たな取り組みについても検討する。

大阪市立天下茶屋小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】	
<p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。 ○令和5年度の小学校学力経年調査におけるデジタル教材を使った学習は楽しいですかの項目に対して「楽しい」と答える児童の割合を前年度以上にする。前年度(R4:66.4%) ○令和5年度の教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上にする。(R4:78.9%) <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ゆとりの日」NO会議デーを月1回設定する。 ○定時(17:00)セットの日を学期に1回設定する。 ○令和5年度末の保護者アンケートにおける「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を進めている」と肯定的に答える保護者の割合を前年度以上にする。前年度(R4:82.4%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 <ol style="list-style-type: none"> 1 メンターの活用により若手教員の育成をはかる。 2 派遣教育指導員の活用により、効果的な授業研究を伴う校内研修の充実をはかる。 	
指標 <ol style="list-style-type: none"> 1 若手教員に対して、指導法や児童・保護者対応について、研修に参加したメンターを中心とした意見・情報交換等を行う研修会を学期に1回開催する。 2 研究授業の際、外部指導者を招聘し、指導内容について、専門的見地からの指導助言により深く検証を行える効果的な校内研修を実施する。全教員による授業研究を実施し、研修成果についてまとめる。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
指標 1	若手教員に対して、指導法や児童・保護者対応について、研修に参加したメンターを中心とした意見・情報交換等を行う研修会を1学期に3回、2学期に1回、3学期に1回実施することができた。成果を目で見えるものにするためにも、研究授業だけではなく、通常授業をいつでも参観できる環境を整える必要がある。
指標 2	スクールアドバイザーと連携して授業を参観していただき、授業後には指導講評の時間を設けて課題状況に対応した指導助言を受けて今後の授業改善へと活かすことができた。また、計画に沿って全教員による授業研究を実施して教員の資質・指導力向上に努めることができた。
次年度への改善点	
<p>1. メンター研修においては目標の回数以上の実施を行うことができたが、より内容を深めていくためには、研究部との連携などを行う必要がある。 本校は単学級が多く、若手の教員も多いため、メンター研修などの研修の成果を確認することができない。また、慣れによる緊張感の継続も望めない。よって、研究部と連携を行い、1人1授業の参観の日程調整や参観の仕方を決めていきたい。また、成果や課題を目で見えるものにしていくために、研究授業だけでなく、通常授業をいつでも参観できる環境を設け、適宜アドバイスを行えるようにしていきたい。</p> <p>2. 引き続き研究授業および研修会を実施する。研究の柱を明確にして共通理解をもって研究を深める。</p>	
取組内容②【基本的な方向 6 教育DXの推進】 <p>1 タブレットを活用した授業を推進とともに、プログラミング教育の実践に努める。</p> <p>2 オンライン学習を計画的に実施する。</p>	
指標	B
<p>1 ICT活用に努めるため、機器の使用方法や教材の工夫となる研修の実践を行い、学習に活用する。</p> <p>2 端末を活用して、1・2年生はコミュニケーションを中心とした学級活動や学習活動、3年生以上はオンライン学習を学期に1回以上行う。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
指標 1	学期に2回程度、校内でのプログラミングやTeams、まなびのポータルなどの活用研修を実施して、様々な活動で使用できるように知識を高めた。1人1台端末は各学年毎日使用している。活動の幅を広げるためのプログラミング研修などを実施した。
指標 2	防災学習の引き渡し訓練後に、児童宅と学校教室双方のオンライン接続を実施した。低学年では学習端末を使い、「デジタルドリル」を使って復習したりして、写真や動画機能を使って学習を進めることができた。3～6年生では、teamsやskymenu発表ノート等を使って、自宅で課題に取り組んだり、完成させた宿題を提出したりすることができた。また連絡帳の内容や週予定等、児童へのメッセージをteamsへの投稿で行い、作業の効率化や見通しを持った学習に活かすことができた。
次年度への改善点	
<p>1 かなり活用の方法は浸透していっているが、1～6年までの活用の流れを作り、学校全体で共有できるとさらに活用の幅が広がると考えられる。</p> <p>2 児童宅と学校教室双方のオンライン接続テストについては、来年度も防災学習（10月実施予定）の際に実施する。</p>	